

声楽アンサンブル第 28 回定期演奏会  
オラトリオ アンサンブル演奏会  
*The 28<sup>th</sup> Oratorio Ensemble Concert*

2022.10.14.Friday

18:30 Start / 18:00 Open

洗足学園 前田ホール

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

## ごあいさつ

本日は声楽アンサンブル第28回定期演奏会にお出かけくださいまして、誠にありがとうございます。

この演奏会は声楽コースの、宗教音楽を学ぶ「アンサンブル実習」の授業成果発表として行われて参りました。

3年目となりますコロナ禍の中で、授業ではパーテーションで仕切りマスク着用のままでの練習を重ね、出演者全員の抗原検査陰性を確認致しまして、本日無事本番を迎える事が出来ました。

演奏させて頂く喜びに溢れた、学生達の音楽の響き合う力を信じて前へ進んで参りたいと思います。

皆様どうぞ最後までご高覧頂きますよう、お願い申し上げます。

洗足学園音楽大学 声楽コース  
アカデミック・プロデューサー 塩田 美奈子

## プログラム

M.-A.シャルパンティエ／お前は美しく、美しい  
*Marc-Antoine Charpentier (1643-1704) // Pulchra es et decora*

C.モンテヴェルディ／そして蘇りました  
*Claudio Monteverdi (1567-1643) // Et resurrexit*

M.グランチャーニ／甘きイエスよ  
*Michel'Angelo Grancini (1605-1669) // Dulcis Christe*

～ 休憩 ～

F.ドゥランテ／マニフィカト 変ロ長調  
*Francesco Durante (1684-1755) // Magnificat in Bflat major*

～ 休憩 ～

F.シューベルト／ミサ曲 ト長調  
*Franz Schubert (1797-1828) // Messe in G major D167*

M.-A.シャルパンティエ / Pulchra es et decora「お前は美しく、美しい」

マルカントワーヌ・シャルパンティエ Marc-Antoine Charpentier はフランスバロック期に活躍した作曲家である。1643年に生まれ、若い頃ローマに留学し、当時そこで活躍していたジャコモ・カリッシミ Giacomo Carissimi (1605-1674)に作曲を師事した。フランスに帰った彼は、ギーズ公爵夫人の館やサン・ルイ教会、そして王室礼拝堂のサント・シャペルなどに仕え、1704年にその生涯を閉じるまで数多くの作品を残した。今回演奏する“Pulchra es”は聖母被昇天のためのモテットであり、女声3部と通奏低音からなる。テキストは旧約聖書の「雅歌」の6章からとられており、「エルサレムの娘よ、あなたは美しく美しい。整列した軍勢のように恐ろしい」と歌われる。

染谷 熱子

C.モンテヴェルディ / Et resurrexit「そして蘇りました」

“Et resurrexit”はイタリアバロック期の巨匠クラウディオ・モンテヴェルディ Claudio Monteverdi(1567-1643)によって作曲された、ソプラノまたはテノール2人とヴァイオリン2本そして通奏低音のための小品である。モンテヴェルディは北イタリアのクレモナに生まれ、20代でマントヴァの宮廷音楽長になった。ルネサンスからバロックへと音楽様式が移り変わる中でマドリガーレやオペラなどを多数作曲したが、1613年にサン・マルコ大聖堂の音楽監督に任命され、そのミサや晩課のための作曲に追われるようになる。それらの宗教作品を主に収めたのが1640年にヴェネツィアで出版された曲集『倫理的・宗教的な森 Selva Morale e Spirituale』である。“Et resurrexit”もこの中に収められており、歌詞はミサ曲のクレドの復活の節からなる。イエスの復活の喜びをソプラノ2声とヴァイオリン2本との掛け合いで表した短くも美しい作品である。

染谷 熱子

M.グランチーニ / Dulcis Christe「甘きイエスよ」

1604年、ミラノで生まれたミケランジェロ・グランチーニは、生涯ミラノで活躍した作曲家兼オルガニストである。17歳の時にミラノのサンタ・マリア・デル・パラディーゾ教会のオルガン奏者として活動し、既に作品集を出版していた早熟な作曲家であったと言われている。1630年にミラノ大聖堂オルガン奏者の座をかけてコンクールに参加し、見事に選出され、その後、1650年にはミラノ大聖堂の最重要ポストである礼拝堂楽長に就任し、ミラノで最も重要な作曲家として君臨することになる。生涯を通じて教会でのポストを歴任してきたため、作品のほとんどは実際に典礼などで使用するための宗教曲であった。

「甘きイエスよ」は1646年に出版された『聖なるコンチェルト集第6巻 Il Sesto Libro de Sacri Concerti』に収められている作品である。2000年に発売されたイタリアのポップス界のスター、ミーナのアルバムに収録され、この作品がクラシック音楽業界の領域を超えて一躍注目を浴びることになった。ももとは今回演奏されるソプラノ2重唱がグランチーニのオリジナルの編成である。

福島 康晴

F.ドゥランテ / Magnificat 変ロ長調

フランチェスコ・ドゥランテは1684年ナポリ近郊のフラッタマッジョーレに生まれた。作曲家として宗教曲を中心に作品を残した他、教師としての評価が高かったことも有名で、当時ナポリにあった4つの音楽院のうちポーヴェロ・ディ・ジェズ・クリスト音楽院、サンタ・マリア・ディ・ロレート音楽院、サント・オノーリオ音楽院の教授を歴任したことで知られている。ペルゴレージやピッチンニ、パイジェット等がドゥランテの弟子である。中でもピッチンニを我が子のように可愛がっていたという逸話が残っている。1755年この世を去り、ナポリの聖ロレンツォ教会に埋葬された。

イタリア古典歌曲集にはドゥランテの「愛に満ちた処女よ Vergin, tutto amor」や「踊れ、優しい娘よ Danza, fanciulla gentile」が収録され、長い間歌い継がれてきたが、現在ドゥランテ作品の中で最も演奏されているのはこのマニフィカトである。作曲年代ははっきりしていないが、多くの筆写譜とヴァージョンが存在している。中にはオーケストラレーションが異なったり、間に挟まれている曲が全く別のものであったりと様々で、4声のものもあれば5声のものもある。今回は4声のヴァージョンが演奏される。

福島 康晴

## F.シューベルト / ミサ曲 ト長調

フランツ・ペーター・シューベルト(1797-1828)はオーストリアのウィーン郊外のリヒテンタールで生まれ、ウィーンにて31歳という短い生涯を終えるまでに600曲を超える歌曲をはじめ、8つの交響曲(未完のものも含めると10を超える)、室内楽曲やピアノ曲など、膨大な数の作品を作曲し、今なお多くの作品が好んで演奏されている。彼は生まれながらのカトリック信徒で、11歳の頃から現在のウィーン少年合唱団の前身でもある宮廷礼拝堂合唱隊で歌に親しみ、同時に王立宿舍制神学校(コンヴィクト)の給費生となり若い頃から厳格なカトリック教育や音楽専門教育を受けていた。後に変声期を迎え、中途退学をし、父が務める教区学校の教師となるが、教師の仕事自体にはそこまで力を入れず、当時ウィーンの宮廷楽長であったサリエリに作曲の指導を受け、作曲活動を続けた。

こうして子供の頃から歌に、そしてキリスト教と深く関わっていたシューベルトの歌曲作品は声の事を良く考えられた、歌手に優しい作品となっている。(もちろんそのシンプルさゆえに音楽的表現を出すのは難しい一面もあるが。)

彼の作る歌曲は今なお多くの人に愛されていることはもちろん、彼の残したミサ曲も現在でも多く演奏されている。シューベルトはミサ曲を全部で8作品残している。ドイツ語によるレクイエム D.621 と、ドイツ語ミサ曲 D.872 を除き、残り6作品はラテン語によるカトリック教会式文での作品であり、本日演奏するト長調の D.167 はミサ曲第2番である。1815年の3月2日から7日にかけての僅か6日間で書き上げられており、おそらくリヒテンタールにある彼の家族の境界で演奏される予定であった。しかし、実はこの作品に関しては彼の死後18年も経った1846年まで出版されておらず、なんとこの曲が出版された際にはタイトルページにシューベルトの名前でなく無名の作曲家ロベルト・フューラーの名前が記載されていた。フューラーは最終的には横領の罪で逮捕され、ようやくシューベルト本人の作品として発表、現在では人気を博している。結果的に1814年のミサ曲第1番に続いての第2番として今は発表されている。

ミサの定例文であるキリエ、グローリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュス・デイは全て存在し、全て合わせての演奏時間が約22分間と、それぞれが実に簡潔に描かれている。

・キリエ:”Kyrie eleison”と”Christe eleison”というキリエの対照的な歌詞は、前者が合唱、後者をソプラノソロとすることによってメッセージ性を際立たせている。

・グローリア:エネルギーに駆け抜ける Allegro maestoso で演奏される。トランペットやティンパニなどがグローリアで使用されているのもシューベルトのミサ曲全体を通しての特徴と言えるだろう。今回はそれらのパートはオルガンにて補われる。

・クレド:グローリアと同じく Allegro というテンポ表記だが、実に重量感のあるセクションとなっている。通奏低音をはじめとした弦楽器が常に一定の歩みをすすめる中、合唱パートもそれに沿って一語一語を語るかのように描かれている。それは”Et resurrexit”の復活を歌うところであっても変わらず、ヴァイオリンの動きの変化によって復活への高まりが表現されている。

・サンクトゥス:まるで18世紀を代表する作曲家ハイドンを彷彿とさせるような手法で始まり、後半の”Osanna in excelsis”も短いながらも当時の、格調高い印象的なフーガで語られる。

・ベネディクトゥス:ソプラノ、テノール、バスのソリストによるトリオで演奏される。冒頭はまるでソプラノのアリアかのようにしばらくソロで演奏されるが、そこからテノール、バスと続けて先ほどのソプラノのメロディをモチーフにソロが対旋律のように重なっていくのが秀逸である。

・アニュス・デイ:ソプラノとバスによる独唱も入りながらの荘厳なホ短調で始まるが、最後はト長調に変わり”Dona nobis pacem”(我らに平和を与えてください)と明るく終わるといえるのはいかにもシューベルトらしいと言えるだろう。

P R O G R A M

指揮:福島 康晴(本学講師)

演奏:洗足学園音楽大学 声楽アンサンブル実習履修生  
洗足学園音楽大学声楽合奏団

◇ M.A.シャルパンティエ／お前は美しく、麗しい

*Marc-Antoine Charpentier (1643-1704) // Pulchra es et decora*

Sop. I・・・高岡 未侑    Sop. II・・・菅原 智里    Sop. III・・・佐々木 遥

◇ C.モンテヴェルディ／そして蘇りました

*Claudio Monteverdi (1567-1643) // Et resurrexit*

Sop. I・・・石井 杏実    Sop. II・・・雨森 あかね

◇ M.グランチーニ／甘きイエスよ

*Michel'Angelo Grancini (1605-1669) // Dulcis Christe*

Sop. I・・・井上 ころろ    Sop. II・・・立田 紗音理

◇ F.ドゥランテ／マニフィカト 変ロ長調

*Francesco Durante (1684-1755) // Magnificat in Bflat major*

1. Magnificat
2. Et misericordia ejus
3. Deposuit potentes de sede
4. Suscepit Israel
5. Sicut locutus est ad patres nosutros
6. Gloria

Sop.・・・岸 佳那子, Alt.・・・中森 優衣  
Ten.・・・佐久間涼平, Bs.・・・鈴木 諒汰

◇ F.シューベルト /ミサ曲 ト長調

*Franz Schubert (1797-1828) // Messe in G major D167*

1. Kyrie
2. Gloria
3. Credo
4. Sanctus
5. Benedictus
6. Agnus Dei

Sop.・・・宮根 千翔  
Sop.・・・小林 礼乃, Bs.・・・鈴木 諒汰  
Sop.・・・中村 文美, Ten.・・・佐久間 涼平, Bs.・・・鈴木 諒汰  
Sop.・・・岸 佳那子

# P R O F I L E

## 福島 康晴 (ふくしま やすはる) ♫

東京音楽大学大学院作曲科修了後、バロック音楽に傾倒し声楽を牧野正人氏に師事。その後ミラノ市立音楽院古楽科にてD. フラテッリ氏の下でルネッサンスのポリフォニーを学ぶ。同時に指揮科にも在籍し、R.リヴォルタ氏に師事する。帰国後、テノールとして日本の主要な古楽団体と共演するほか、自ら古楽アンサンブル《エクス・ノーヴォ》を立ち上げ指揮活動を行っている。また、16～17世紀イタリアの音楽理論に精通し、セミナーや講習会などで講演も行っている。洗足学園音楽大学、上野学園大学非常勤講師。

## 上蘭 未佳 (うえその みか) ♫

洗足学園大学音楽学部ピアノ科を優秀賞で卒業。同大学専攻科音楽学修了。その後、渡仏。ストラスブール国立音楽院チェンバロ科を首席で卒業。帰国後、ソロ、通奏低音奏者として演奏活動、後進の指導に当たる。洗足学園音楽大学、東海大学非常勤講師。<http://mikau.jp>

自然と花とチェンバロのYouTubeチャンネル開設中。HYPERLINK

[https://www.youtube.com/channel/UCtxsq1NNROYhRNZbEyge4dA?view\\_as=subscriber](https://www.youtube.com/channel/UCtxsq1NNROYhRNZbEyge4dA?view_as=subscriber)

# M e m b e r

## 《 洗足学園音楽大学 声楽アンサンブル実習履修生 》

学部2年	伊藤 茜璃	齋藤 あいひ	關 華乃	中村 文美	原 朱里	梶内 花音
学部3年	雨森 あかね 矢嶋 愛実	岩井 彩実	小林 瑠菜	鈴木 諒汰	高村 美友	中森 優衣
学部4年	石井 杏実 菅原 智里	井上 ころこ 高岡 未侑	岸 佳那子 立田 紗音理	小林 礼乃 宮根 千翔	佐久間 涼平	佐々木 遥
演奏補助要員	白石 渉	山中 志月	堺 裕馬	仁賀 広大		

## 《 洗足学園音楽大学声楽合奏団 》

Concertmistress	宍戸 育実 <sup>(院2)</sup>					
Violin	頼近 友莉奈 <sup>(学4)</sup>	小林 彩 <sup>(学2)</sup>	鈴木 利々果 <sup>(学2)</sup>			
Viola	加藤 可奈子 <sup>(院2)</sup>	小玉 みどり <sup>(学2)</sup>				
Cello	奥平 華子 <sup>♪</sup>					
Contrabass	高野 響花 <sup>♪</sup>					
Organ	上蘭 未佳 <sup>#</sup>					

声楽指導……………馬場 由香    染谷 熱子    加未 徹    福島 康晴    上蘭 未佳  
 ピアノ……………竹崎 聡子<sup>♪</sup>    森合 爽子<sup>♪</sup>    富田 愛佳<sup>♪</sup>

声楽コースアカデミック・プロデューサー    塩田 美奈子

♪…演奏補助要員 #…教員